

第4学年 道徳 何よりも尊いもの

資料名 走れ江ノ電 光の中へ (出典 東京書籍)

平成29年度

射水市立作道小学校

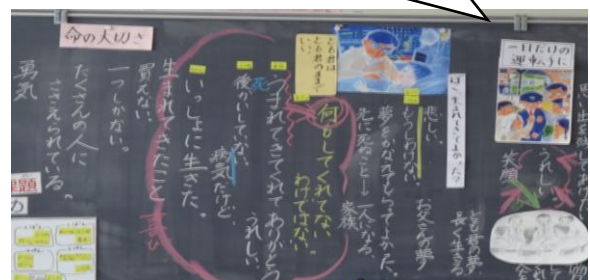
10才という節目に立っている児童に、生きていることに感謝して精一杯生きていこうとする意欲を高めてほしいと考えた。そこで、「二分の一成人式」と関連させながら、自分の存在意義をしっかりと感じ、周りの人の存在も大切に、困難なことも乗り越えていこうとする児童を育てたいと考え、実践した。

そのために、学習の前に、自分自身の生命観を書く活動をしており、話し合いを通して、生命や生きることの意義について、新たな価値形成を確認できるようにした。中心発問では、原作本の挿絵を提示し、より切実感をもって「生きる」ことを考えられるようにした。

主な学習活動

- 1 本時に出てくる人物を把握する。
- 2 資料「走れ江ノ電 光の中へ」を読み、話し合う。
 - 医師から、とも君の状態が悪いと言われたお父さんはどう思ったのでしょうか。
 - 病気が重くなり、「ぼく、生まれてきてよかった?」と聞いたとも君は、どんな思いだったのでしょうか。
 - お父さんは、どんな思いで「とも君は、とも君のままでいい」と言ったのでしょうか。
- 3 本時の学習を振り返る。
 - 今日の学習から、命の大切さについて考えたことをワークシートに書きましょう。
- 4 詩「生きているって」を聞く。

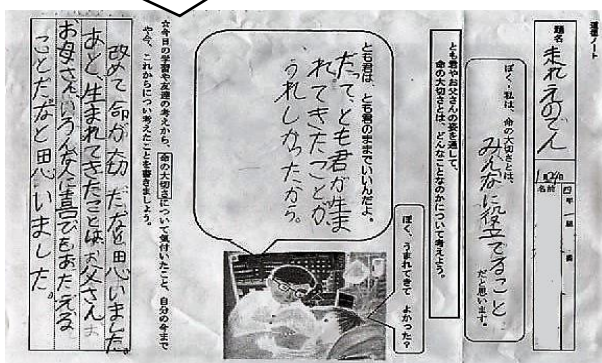
個々の考えを関わらせ、位置付けた板書



【中心発問に関わる児童の反応】

- ・生まれてきてくれたことがうれしい。
- ・生まれてきてくれたことがプレゼント。
- ・笑顔や成長を見ることができてよかった。
- ・いっしょに生きることができてうれしい。

学習前の生命観を書き、学習を通して価値観の広がりを自覚できたワークシート



【学習後の児童の学びの言葉から】

- ・自分の命は、たくさんの人に支えられ、その人たちの思いが込められているのだと気がきました。
- ・自分の命は、お父さんやお母さんの思いが、いっぱい詰まっているのだと分かりました。
- ・私は、生まれてきてよかったなと思いました。
- ・命は、あるだけで幸せなのだと思いました。